

沖繩タイムス 平成24年3月27日(火)

中城湾港 定期船へ弾み

物流戦略報告 実証実験で貨物4倍超

沖繩発着の効率・効果的な物流体系の在り方について検討する沖繩国際物流戦略チーム(本部長・國場幸一農商工会議所連合会会長)の本会合が26日、那覇市の沖繩総合事務局であり、県が昨年11月から実施している中城湾港(新港地区)―鹿児島・志布志港間の定期船就航実証実験の成果報告などがあった。

実証実験の航路では主に、県内企業が鹿児島から飼料原料や製材、砂利などの仕入れに活用。今月19日までに週1回のペースで計17回入港した。実験前の不定期運航時の月間平均取扱量226トに対して、実験後は同1000トとなり、4・42倍に拡大した。利用企業からは「那覇港に陸送する時間が短縮できた」

「物流コストを20%程度削減できた」「交通渋滞を回避できるため運搬計画が立てやすくなった」などの評価があったという。一方で、沖繩発の貨物船は空の状態が続いており、移出貨物の掘り起こしが当面の課題。ただ、4月から新たに航路を利用する阿嘉食品(久米島)が事業規模の拡大と同時

に県内で製造した飲料水の中城湾港から出荷する計画で、県港灣課は「順調に進めば事業終了後の定期化にはずみがつく」と期待している。県は月間平均取扱量の同2800トを目標に、周辺企業に貨物船の利用を呼び掛ける方針。

2012年(平成24年) 3月27日 火曜日

沖 繩 タイム ス